

第2回本宮地区熊野川を考える会

平成18年7月7日

和歌山県

第1回考える会での課題

- 熊野川の河床掘削による水位低下
- 堤防整備による内水の影響

今回の検討内容

1. 当面の治水目標(案)

2. 当面の治水対策(案)

- ・熊野川の河床掘削による水位低下
- ・治水対策(案)別の内水検討

1. 当面の治水目標(案)

1.1 近年の主な浸水被害実績

年月日	洪水名	浸水被害状況		二津野ダム ピーク放流量
		床上	床下	
昭和50年8月22日	台風6号	55戸	7戸	約4,600 m ³ /s
平成2年9月19日 (※)近年最大洪水	台風19号	76戸	29戸	約5,000 m ³ /s
平成9年7月25日	台風9号	5戸	6戸	約4,000 m ³ /s

資料提供：田辺市本宮行政局

1.2近年の主な洪水の痕跡水位

本宮大社前



※本宮行政局現地立会いにより洪水痕跡水位を推定（調査日H17.11.7）

2. 当面の治水対策(案)

2.1当面の治水対策(案)の方向性

本宮地区治水目標：平成2年9月洪水
(二津野ダム実績放流量：約5,000m³/s)

①築堤による熊野川からの洪水流入の防止

→世界遺産である熊野本宮大社旧社地付近の景観を考えて、築堤の高さは、旧社地の平均地盤高よりT.P. +58.5mと仮定する。



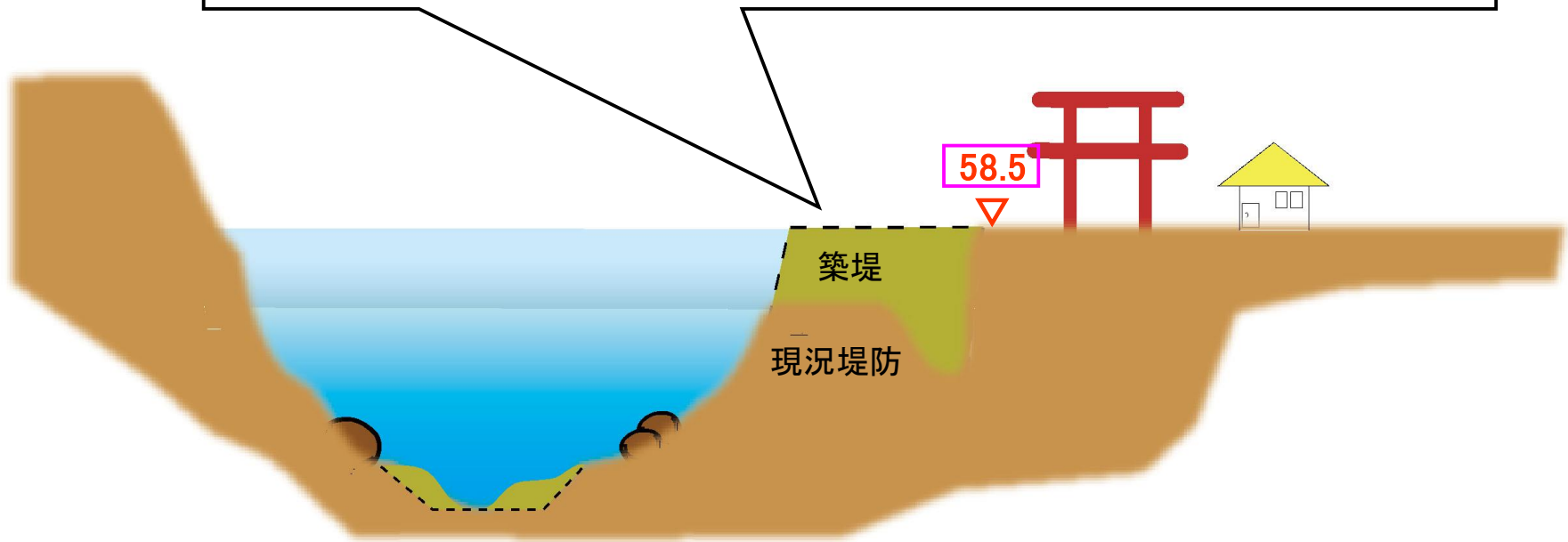
築堤整備をしても越水する場合

②熊野川の河床を掘削して河道流下能力を向上

→熊野川の河床掘削で河道流下能力を向上して、旧社地付近の景観を考えた築堤の高さで、平成2年9月洪水を安全に流す。

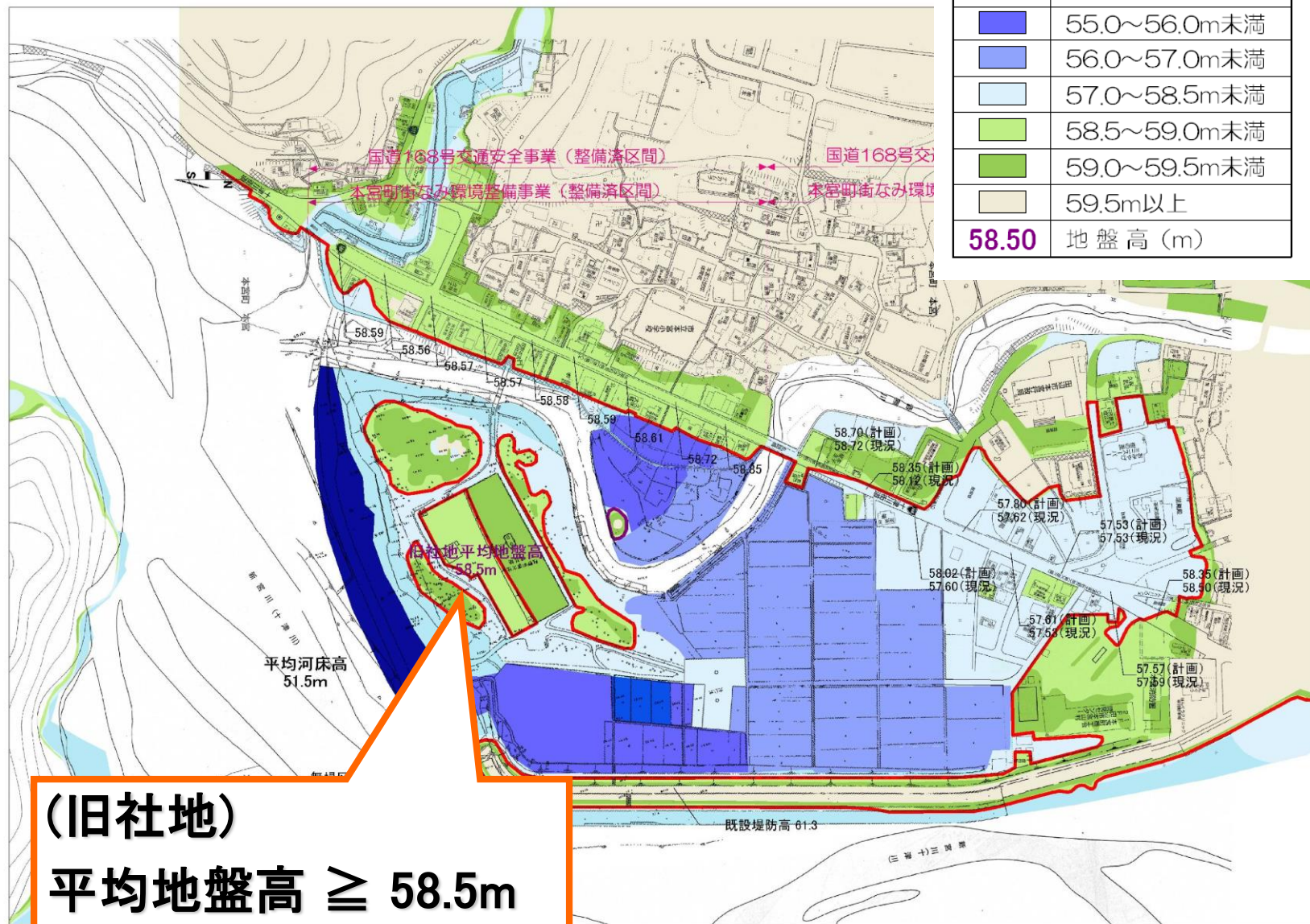
2.2治水対策(案)のイメージ

- ①築堤による熊野川からの洪水の流入を防止
→旧社地付近の景観を損ねない高さ(T. P. +58. 5m)で築堤。

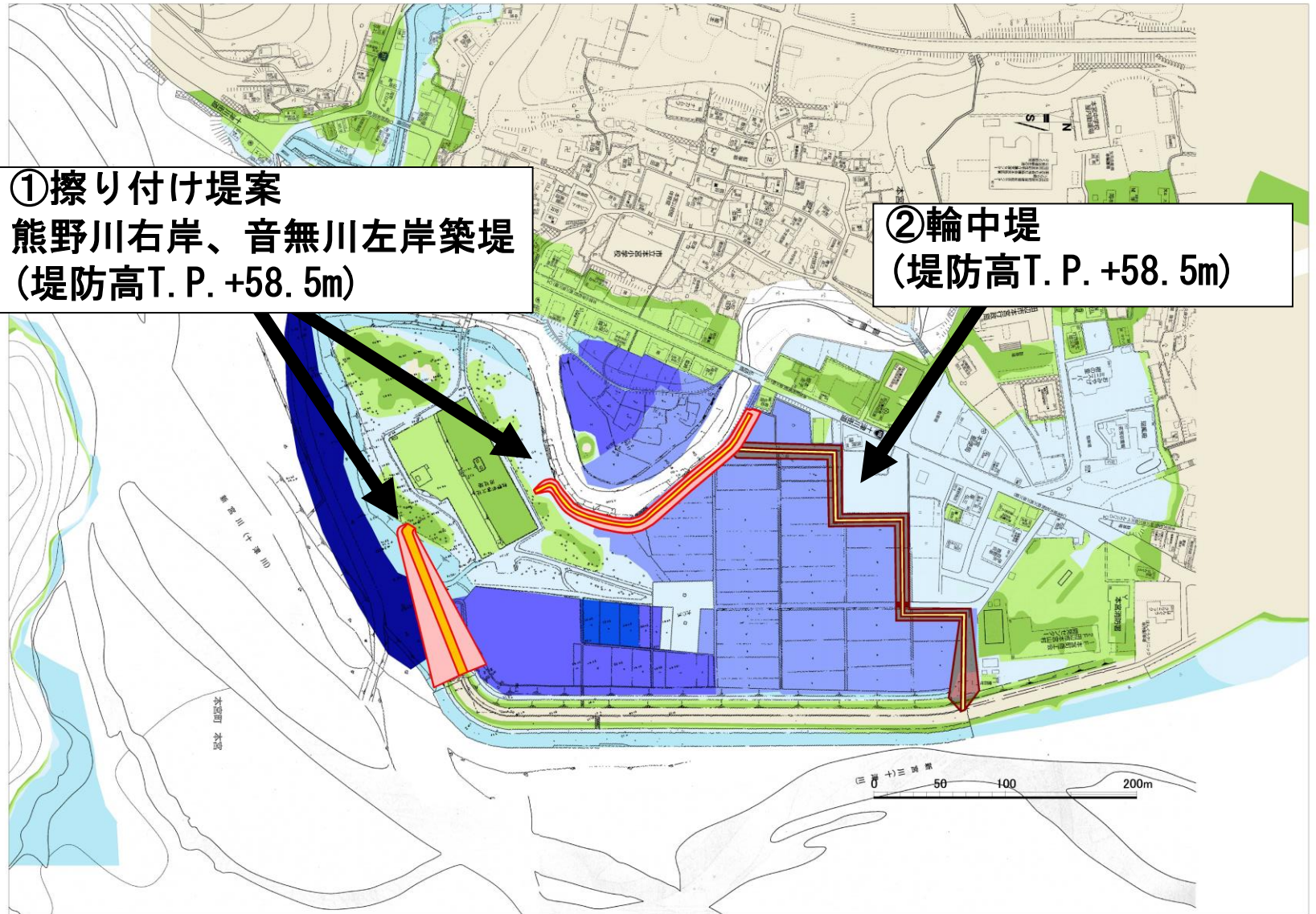


- ②熊野川の河床を掘削して水位を下げる

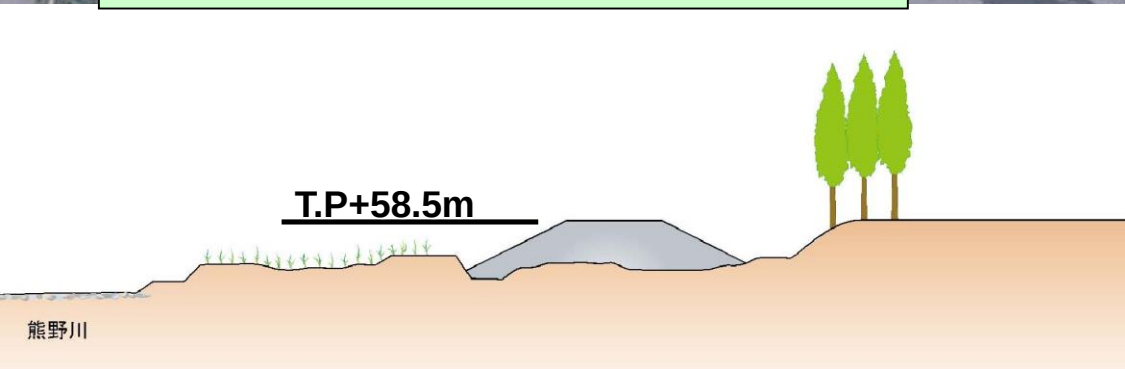
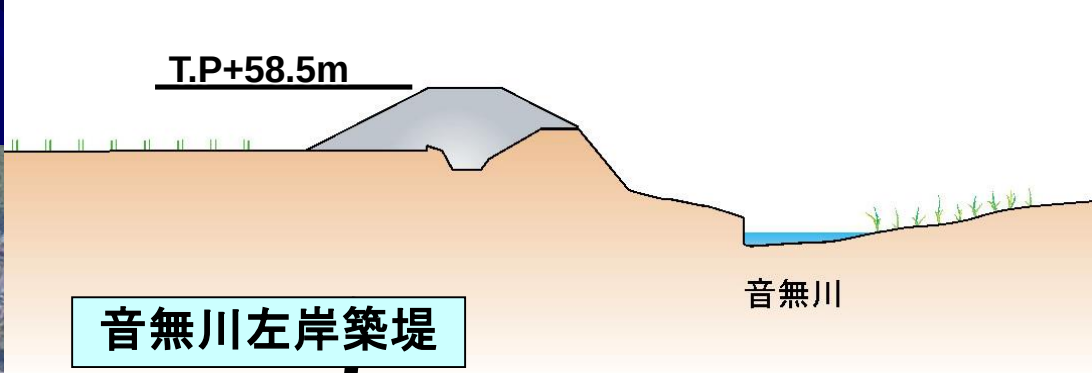
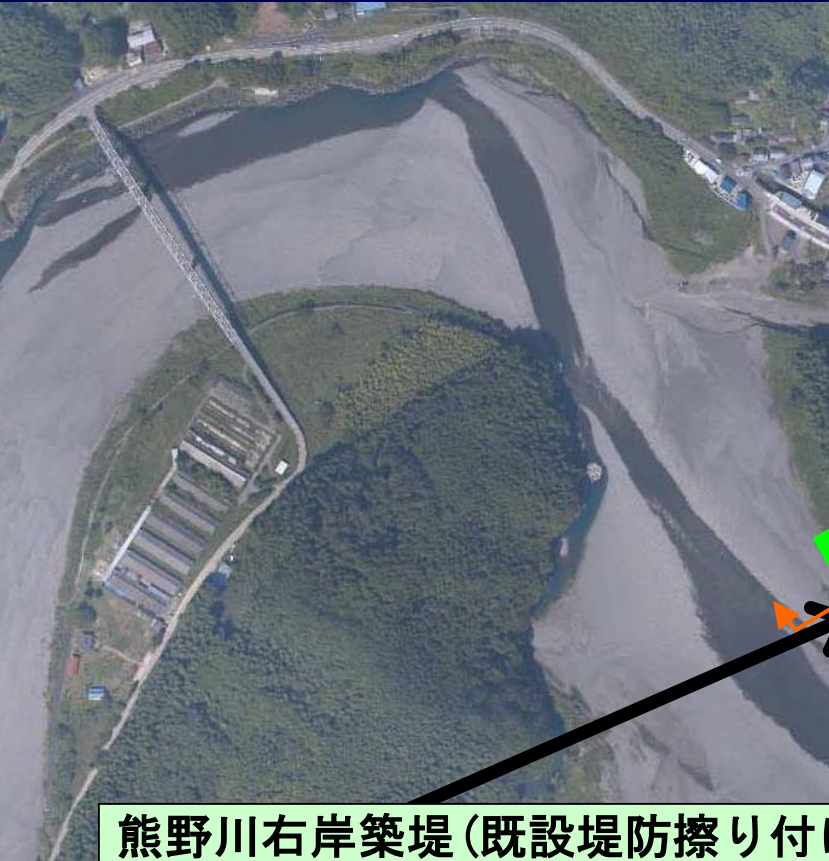
2.3 本宮地区の地盤高



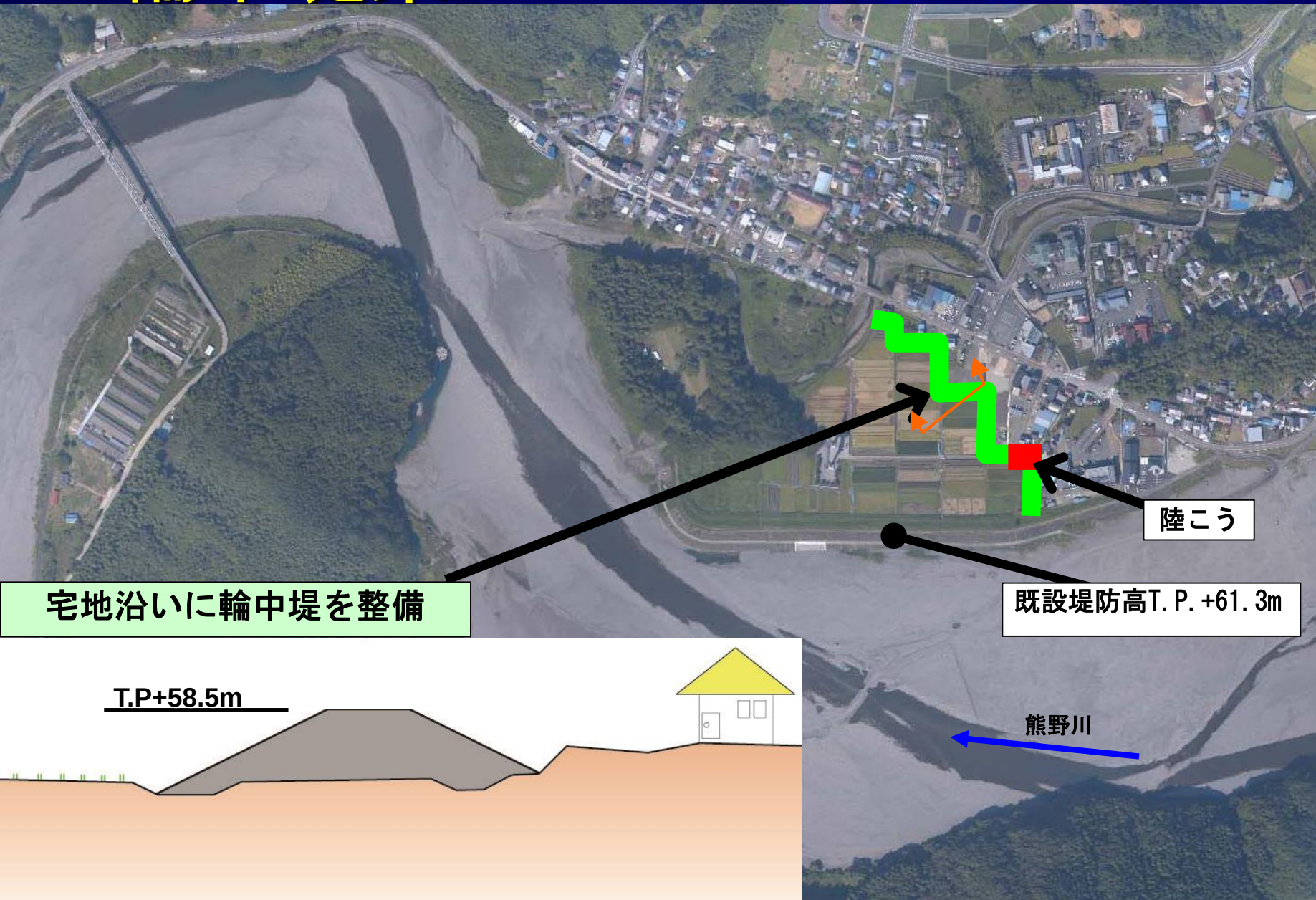
2.4築堤による熊野川の洪水流入防止



2.5擦り付け堤案

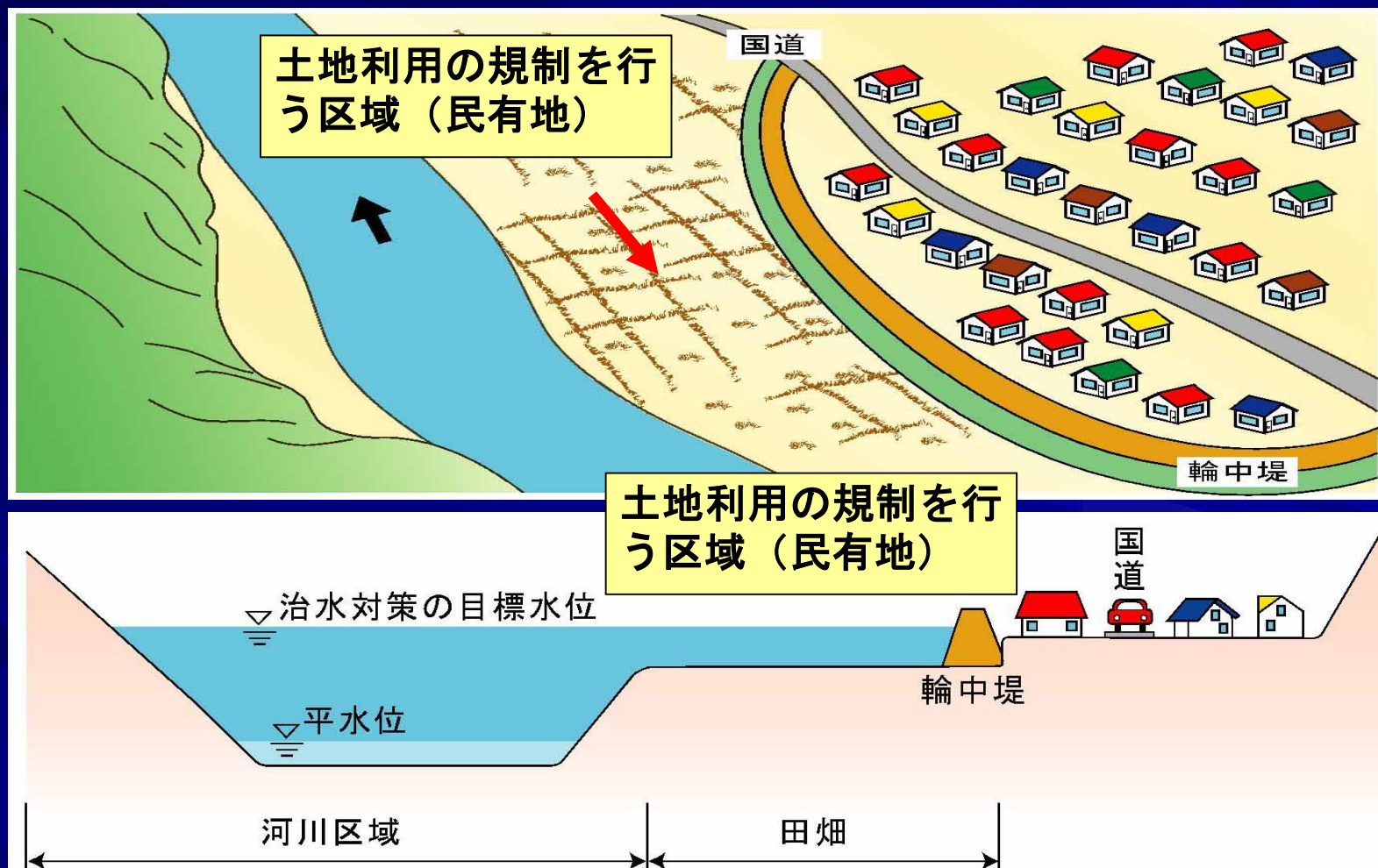


2.6輪中堤案



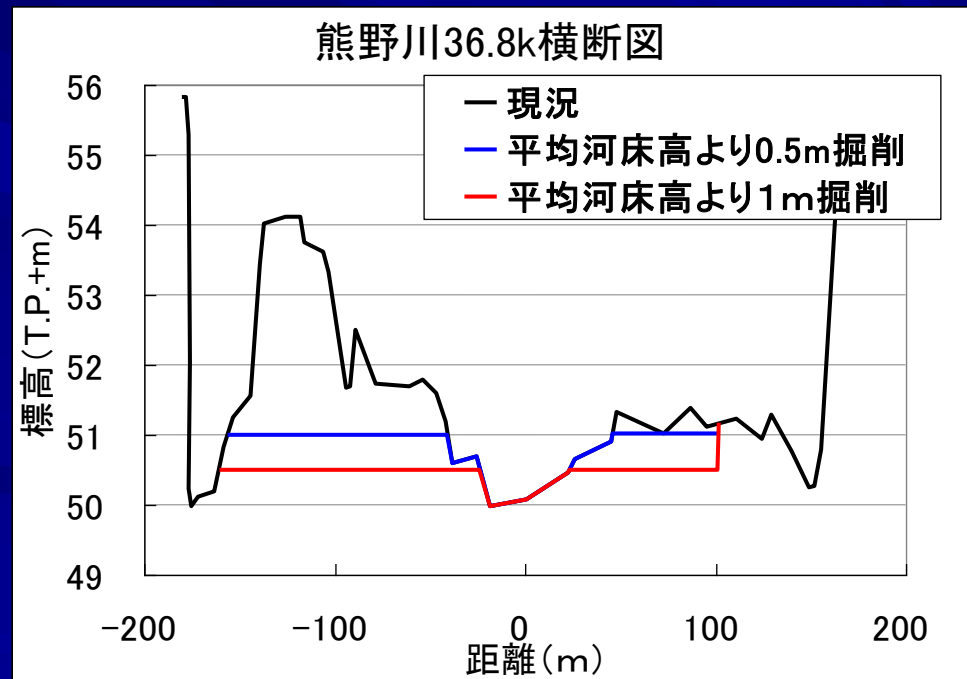
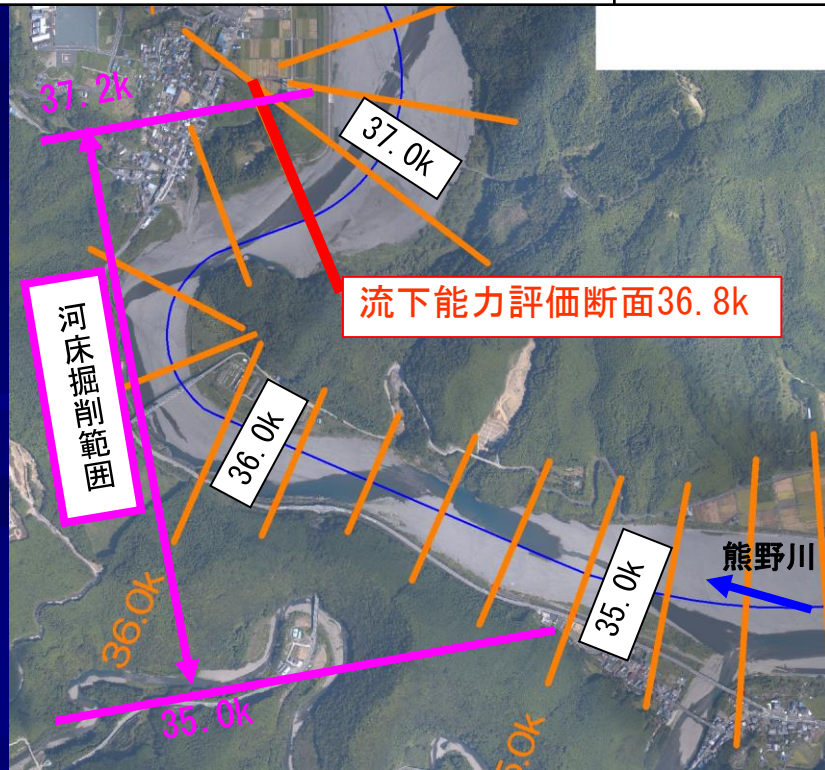
・土地利用規制

氾濫を許容する区域での新たな住家が立地しないように
条例等で一定の規制をかけることにより洪水に対する安全性を確保する



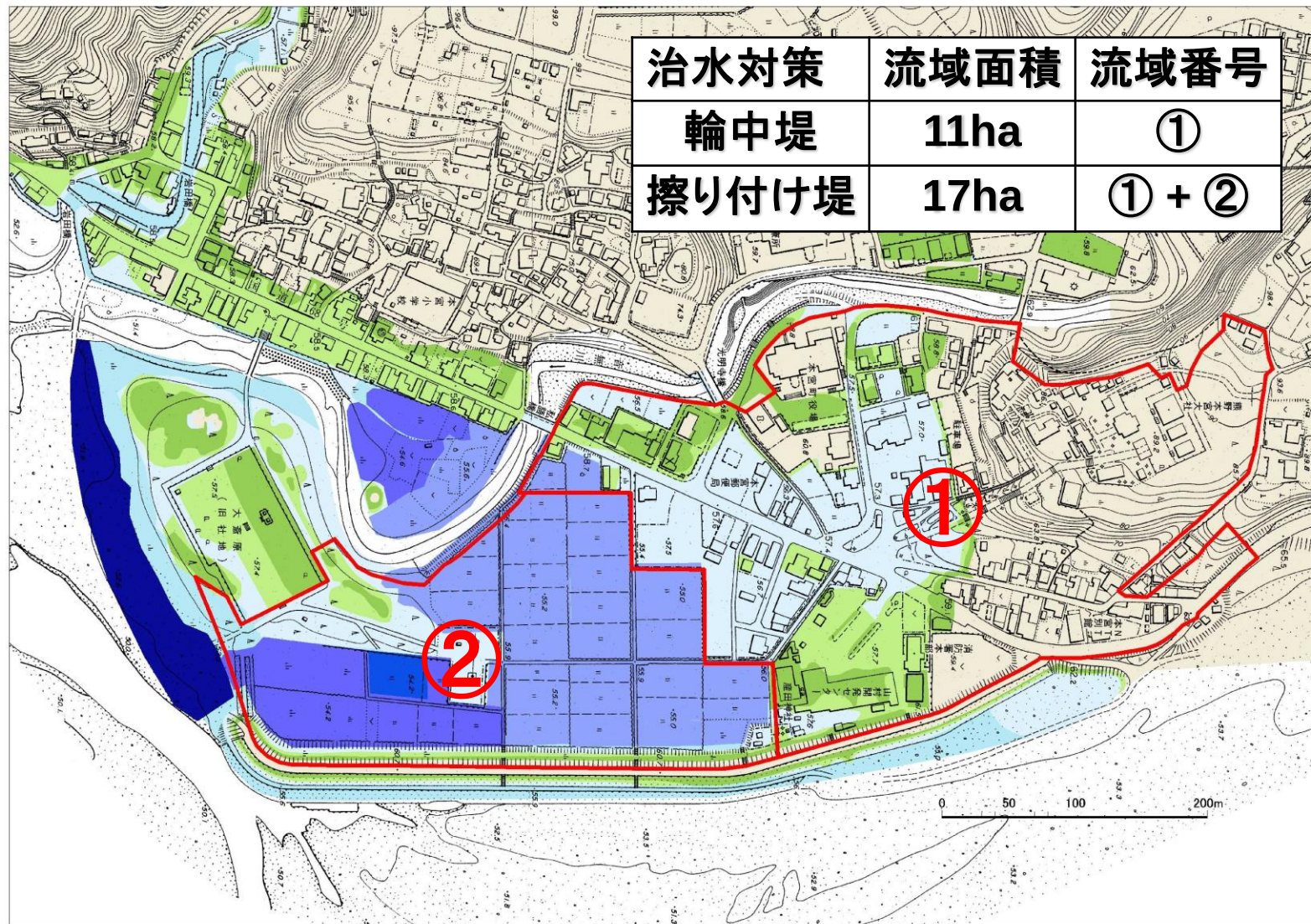
2.7 熊野川の河床掘削による水位低下

河床掘削内容	堤防を整備した場合 (評価高T.P. +58.5m) 流下能力	堤防を整備しない場合 (評価高T.P. +57.3m) 流下能力
ケース1：現況	4,800 (m ³ /s) 昭和50年8月洪水対応	3,500 (m ³ /s)
ケース2：平均河床から0.5m掘削	4,900 (m ³ /s) 昭和50年8月洪水対応	3,700 (m ³ /s)
ケース3：平均河床から1m掘削	5,000 (m ³ /s) 平成2年9月洪水対応	3,800 (m ³ /s)



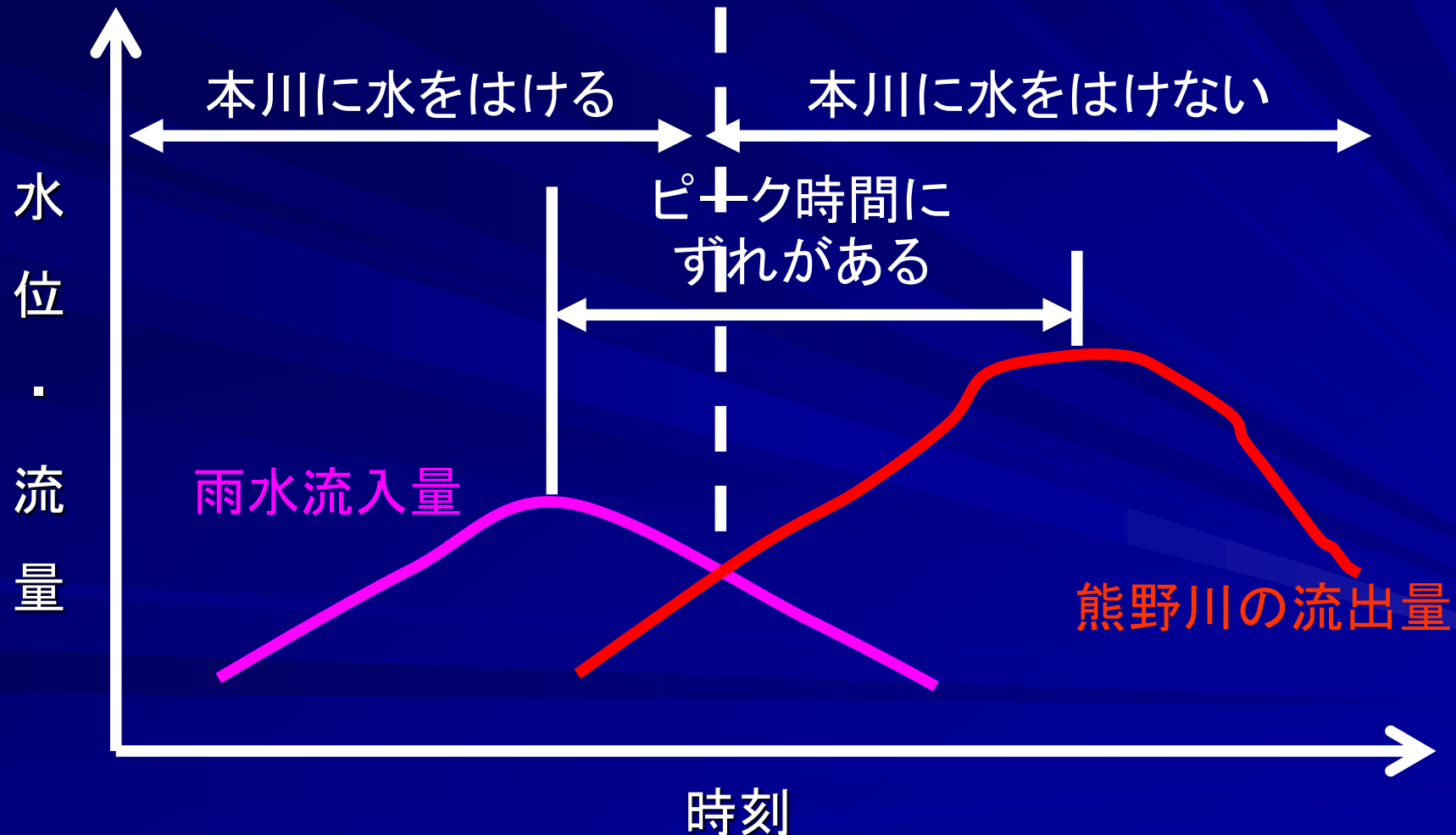
2.8堤防整備による内水検討

内水の対象となる雨水流入エリア



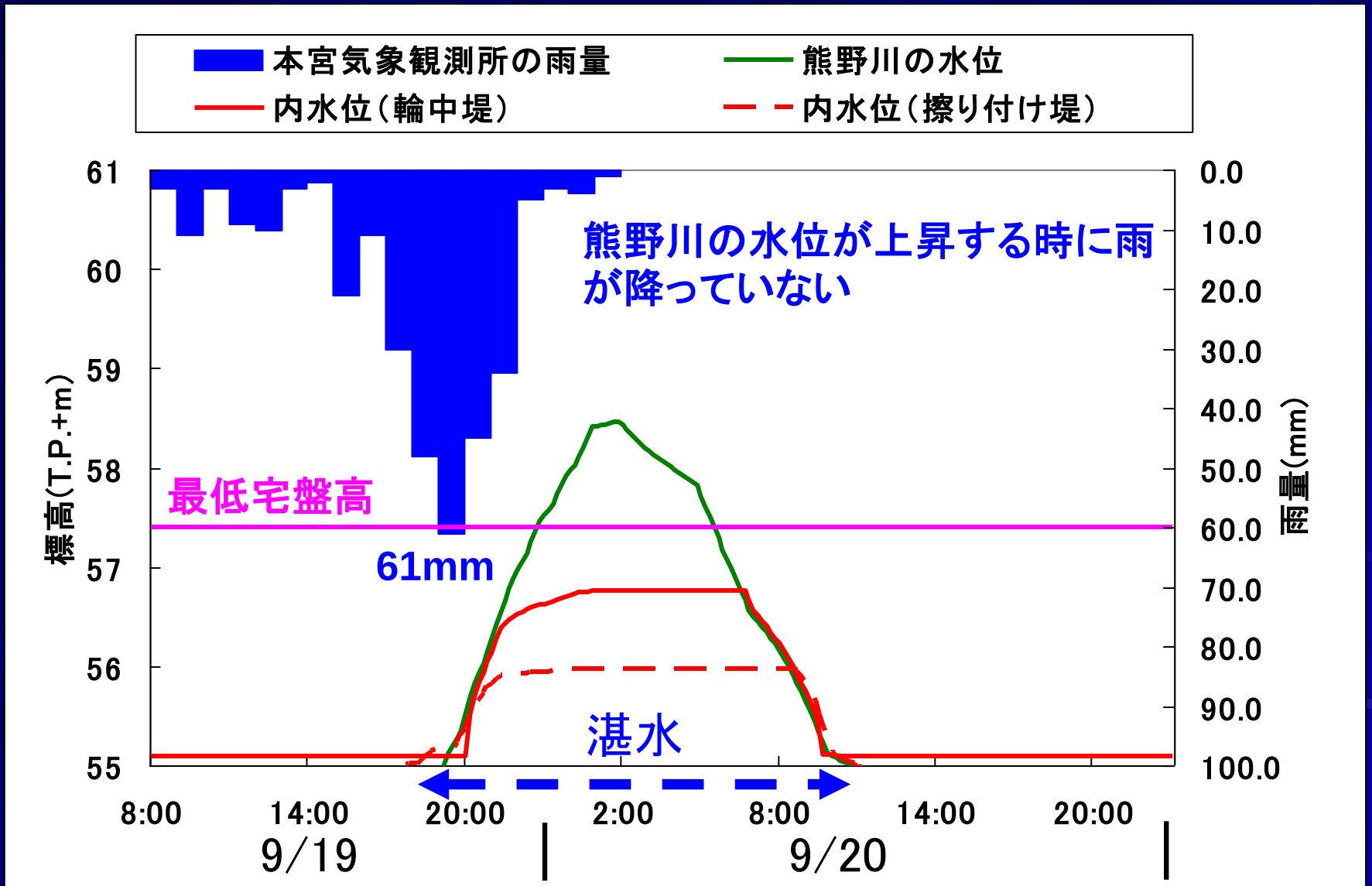
2.8堤防整備による内水検討

雨水流入量と熊野川の流出量のピーク時間がずれているため内水位が高くない



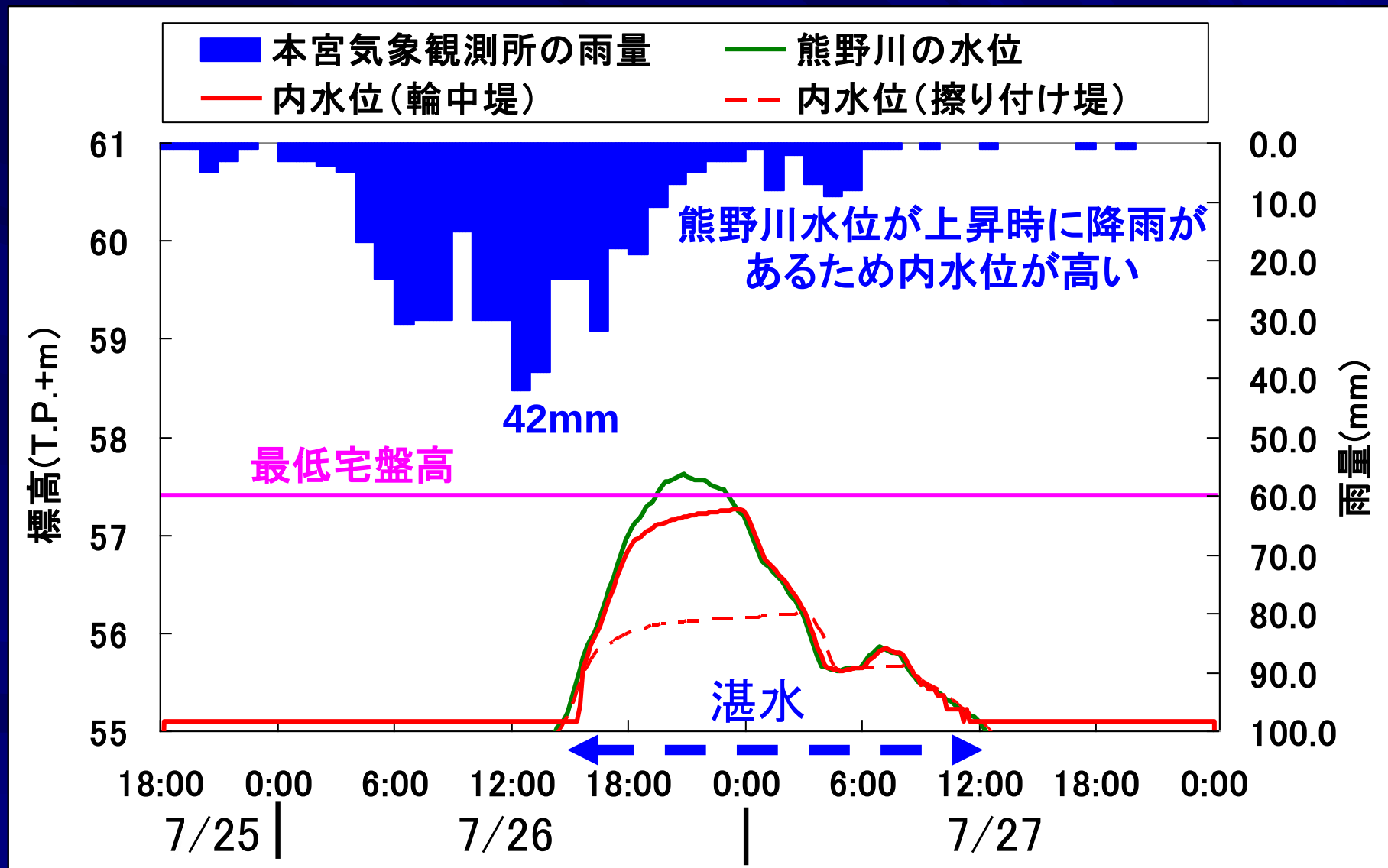
2.8堤防整備による内水検討

平成2年9月洪水規模による内水解析結果

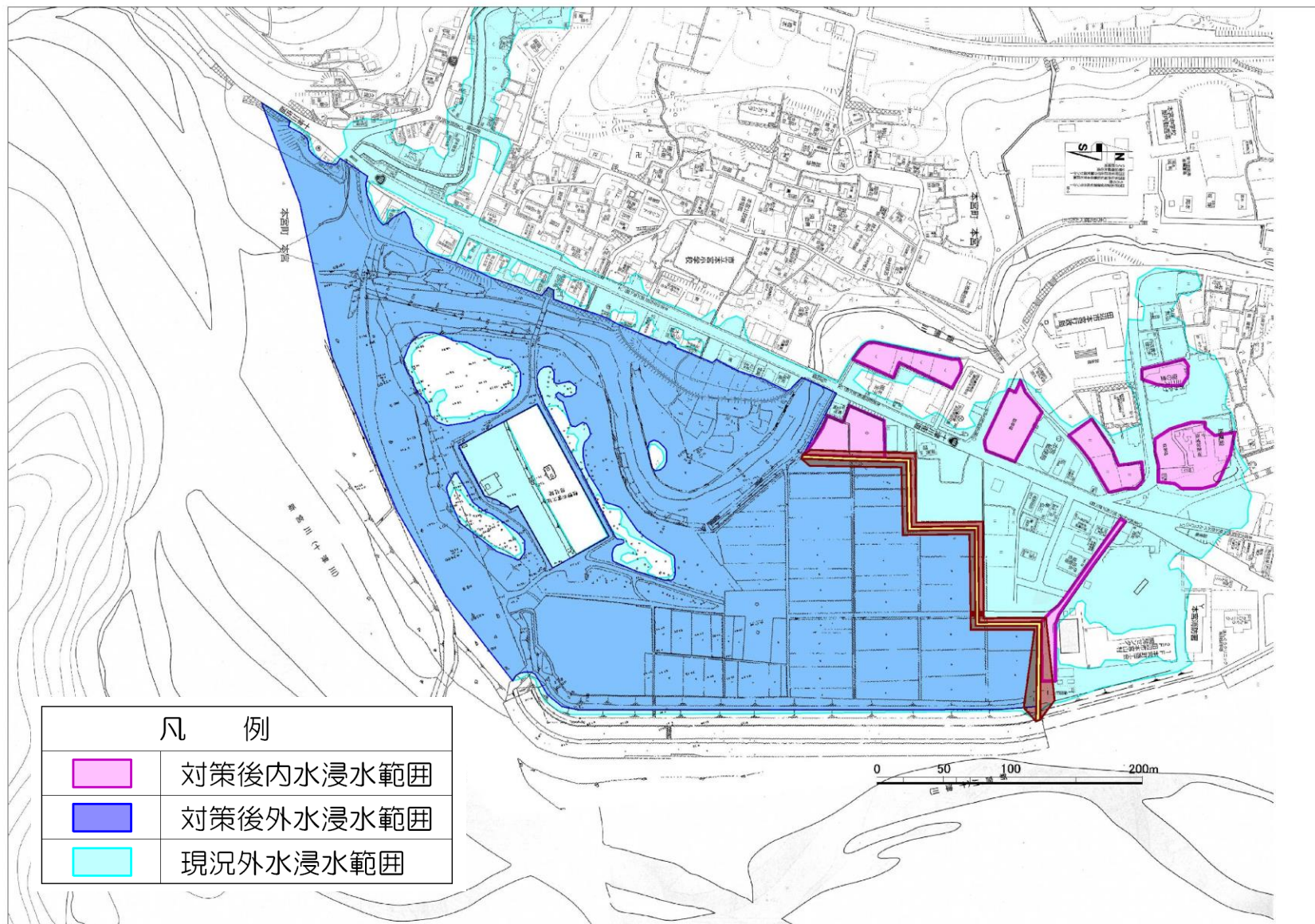


2.8堤防整備による内水検討

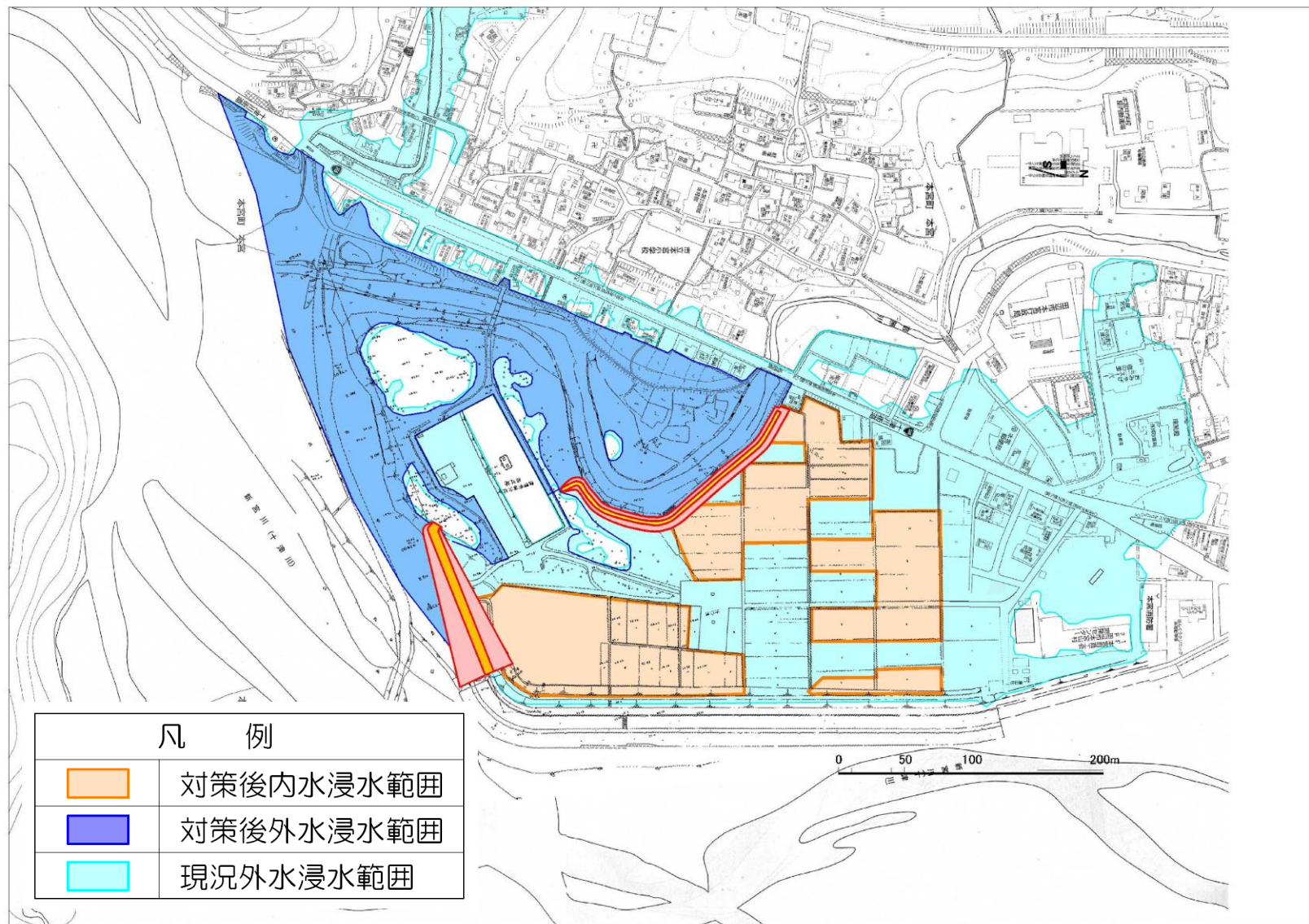
平成9年7月洪水規模による内水解析結果



浸水エリア(輪中堤)



浸水エリア(擦り付け堤)



橋梁部の掘削について

